

連合教職大学院生通信

発行元：大阪府教育委員会事務局教育政策課・大阪府教育センター

令和5年
2月号
Vol.5

ブログ掲載版

Life is short

私が大切に
している言葉は、

「**Life is short**」です。

日本語で言うと
「人生は短い」

だから楽しんだり、
経験したりしたほうが
いいと思っています。



第5号は大阪市鶴見橋中学校の古月大輝先生の紹介です。インタビューから、教職大学院での学びを授業や学級運営に活かして生徒のやる気を引き出す指導をされている様子や、仕事と学業の両立を行いながら、趣味や息抜きを楽しんでいる姿が見えてきました。

キーワードは「メリハリ」です。

INDEX

- ・古月先生の紹介
プロフィール等
1日のスケジュール
印象に残る体験
- ・編集後記

援助ニーズ教育実践コース1回生

古月先生のプロフィール

大学卒業後、愛知県の中学校教員として勤務しました。教科は英語です。愛知県では3年間勤め、その後、地元である大阪市に戻って、鶴見橋中学校に勤務しています。

趣味は旅行です。大学生の時には、ASEAN加盟国全てをまわりました。アジアを中心に、様々な国の文化や風習に興味があります。

大学院進学のかきかけ

私は、外国にルーツのある生徒が、日本の社会の中でより良く、より自分らしく生きていくために必要な力をつけるにはどうしたらいいのかということ、ずっと考えてきました。大学院で学ぶことで、少しでも課題を解決できるようになりたいと考えています。

授業に間に合うために

1日を計画立てして過ごしています。大学院の授業に間に合うように逆算して、何時までに職場を出るか、段取りを組みます。

大学院にはさまざまな課題意識にマッチした授業があります！

古月先生が来年受講したいと考えている授業

「外国にルーツのある子どもの教育I」

(担当教員) 臼井 智美 准教授

(授業の到達目標)

外国にルーツのある子どもの多様性と教育課題を知り、特に子どもの学力や学習言語力の向上に向けた在籍学級での支援の意義と方法を理解する。

(授業の概要)

外国にルーツのある子どもの教育について、在籍学級で学級担任や教科担任が行う指導や方法を説明する。特に、学力形成を促す教科指導の方法について指導案検討を通じて解説し、授業づくりの留意点を解説する。

授業で用いられた資料の一部

「日本語力を育てる指導」を行う必要性

言葉の力が未熟だと...

授業内容が理解できない

☹️ 何の話がされているのか、わからない

→ 話の中に出てくる言葉の意味を教える

意味がわかるための支援
語彙が増えるための支援 } 両方必要

☹️ 自分が何と答えたらいいか、わからない

→ どういう答え方が適切か教える

授業に参加できない

古月先生の1日のスケジュール



古月先生は自身のタイムスケジュール管理をしっかりとされており、学校に勤務する時間や大学院で学ぶ時間にメリハリをつけて行動されています。どのように1日を過ごされているか、お聞きしました。

平日

次の日の仕事に支障が出ないようにするために、睡眠時間はしっかりとっています。毎日夜12時には寝るようにしています。



学校にいる時間にできることは全てするように心がけています。例えば次の日の授業準備は学校にいる時間に済ませています。また、定期テストなどは2週間前までには作成して、準備しています。



大学院には自転車ですべて通っています。時間調整ができ、授業後も電車の時間を気にせずに帰宅することができています。

起床
朝の支度

出勤

登校指導
朝学活
授業

給食
授業

終学活
部活動

退勤
大学院へ

大学院
授業(6限)
授業(7限)

帰宅

夕食

大学院の
課題

就寝

6時 ● 6時

7時 ● 7時

8時 ● 8時

12時 ● 12時

17時 ● 17時

18時 ● 18時

21時 ● 21時

22時 ● 22時

23時 ● 23時

休日

起床
朝の支度

出勤

部活動

昼食
買い物

帰宅

大学院の
課題

夕食

自由時間

就寝



休日の部活動は生徒と一緒にバスケットボールに没頭します。



大学院の提出課題は1000字程度のレポートなら1時間ほどで書き上げるようにしています。課題を出された時点から構想を練り、文章を書くときには一気に仕上げます。



ASEAN諸国を巡る旅

大学生の時、何か大学時代の思い出を作りたいと考え、海外に行くことにしました。どこに行こうかと調べましたが、東南アジアだと比較的安い値段で回れることが分かりました。さらにASEAN加盟国に絞ることで、10カ国を旅するという目標ができると思いました。実際に外国に行く時には、大学の長期休暇を利用して何回かに分けて行くことにしました。

印象に残っていることはたくさんありますが、ブルネイ・ダルサラーム国に行った時、大学生には贅沢な「ジ エンパイアホテル」に泊まったことは忘れられません。部屋の内装も広さもすばらしく、ホテル自体の敷地面積もとても広くて、ゴルフカートで回るようなところでした。あとは、カンボジアのアンコールワットが印象に残っています。有名な世界遺産で、もちろん景色も良かったのですが、そこで土産を売っていた子どもの姿が印象に残っています。フランス語から中国語、日本語、英語、いろんな言語を駆使して何とか観光客に物を買ってもらおうとしていました。たくましく、必死に生きている姿を目の当たりにしました。



ブルネイ・ダルサラーム国

カンボジアでの体験

愛知県で勤務している時にご縁があり、1週間カンボジアで授業をする機会を得ました。「バケツリスト」という題材を扱って授業を英語で行いました。「バケツリスト」とは、「死ぬまでにやりたいことリスト」のことで、それを作ることで自分がやりたいことを明確にし、自分の人生をより有意義なものにするという活動です。

カンボジアの子どもたちは実際に会って話すと生き生きとしており、授業でも目を輝かせて参加してくれていました。

「バケツリスト」の活動をする際に、例示として「外国に行きたい。」とか、「ハンバーガー〇〇個食べたい。」などの簡単なものを示したのですが、カンボジアの子どもたちは自分の将来の夢について書いていました。「看護師になりたい。なぜならカンボジアの国では困っている人がたくさんいるから。」や、「将来教員になりたい。なぜなら自分は〇〇が苦手だから、先生になったら優しくていねいに教えてあげたい。」などのように、死ぬまでにしたいこととして、自分が就きたい職業について具体的に考えていました。子どもたちの真剣に生きる気持ちが伝わってきました。



カンボジアで教えている古月先生

編集後記

大学院での古月先生は、グループワークの時に記録や発表の係を快く引き受けてくれる人当たりの好い、優しい先生という印象の方です。今回のインタビューから新たに気づいたことは、興味や関心があることにぐっと近づいていく行動力と、限られた時間を有意義に過ごそうとする信念をお持ちなのだということでした。「Life is short」は決して、焦って様々なタスクをこなすのではなく、時間を決め集中して取り組むことなのだということ、古月先生は体現されているのだなと思いました。緩急をつけた時間の使い方は、人生を豊かにしていく上でも必要なことかもしれません。

教職大学院で学ぶ生活について、「大変なのではないか。」「両立できるのか心配だ。」と不安の声がよく聞かれます。院生はそれぞれ工夫しながら学びを続けています。院生のみなさんの姿を見ていると、両立することは可能なのではないかと思っています。本号で、古月先生のように、教職大学院に通いながら、仕事も勉強も私生活も、時間の使い方によってカスタマイズでき、楽しめるということをみなさんにお伝え出来たらと思います。